

平成21年度学校自己評価及び関係者評価

兵庫県立柏原高等学校

1 中期的な学校運営の目標・方針

校訓 — 「進取創造」「質実剛健」「敬愛和協」を理念として、知性・特性を磨き、身体を鍛錬し、その体得体現に努め、人類・社会に貢献する人材を育てる。

2 年度の重点目標

- ・ 柏高の新しい伝統を創造するとともに、生徒が元気で明るく生き生きとした学校づくりを目指す。
- ・ 学校行事の休日実施や「オープン講座」「オープンスクール」「地域貢献事業」などを通じて学校を保護者や地域社会に開くとともに、HPの活用や積極的な広報活動により本校教育の良さを徹底して広報する。
- ・ 生徒達がさまざまな舞台で活躍できるよう、指導を工夫しながら確かな学力をつけ、個性や能力を伸ばす。

3 学校自己評価結果 (A 優れている B 良い C おおむね良好 D 要改善)

分野	評価項目・取り組み内容	達成状況	学校取り組み状況・改善の方策
教務・教育課程・教科指導	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒の適性、進路希望に応じた教育課程を編成し、個に応じた適切な指導を行う。 ・ 研究授業や校内研修を通じ、教員の指導力の向上に努めるとともに、生徒達の学習意識の向上を図る。 ・ 生徒による授業評価や生活実態調査の結果を授業内容の改善に活かす。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自然科学系コースは文系にも対応できる教育課程を、また一般コースも2年次から3つの類型を設置し、個々の進路希望に応じて類型・科目の選択ができる工夫をしている。英語・数学では習熟度別授業を、さらに選択科目を中心に複数の科目で少人数制授業を実施し、生徒の実態に応じたきめ細かな指導を心がけている。 ・ 本校は今年度から3年間、学力向上プロジェクト研究校の指定を受け、「学習意欲の向上」を目標に、昨年度まで実施していた各教科の研究授業に加え、授業公開週間の設定、教員研修の実施などに積極的に取り組んでいる。さらには生徒による授業評価や生徒の生活実態調査を実施し、生徒の現状にあった指導、学びたいことが学べる授業を目指している。来年度以降もこれらの取り組みを継続し、生徒達の学習意欲と学力を向上させていきたい。
総務広報・環境指導	<ul style="list-style-type: none"> ・ 個人情報に配慮した情報発信に努め、さらに「開かれた学校」づくりを推進し、学校としての説明責任を果たす。 ・ 各部・学年がテーマに沿った組織運営ができるよう、企画調整役として指導力を発揮する。 ・ 「高校生地域貢献事業」や「ちょボラ」等のボランティア活動、清掃活動等を通して、生徒の地域社会への協働と参画の意識を高める。防災教育や避難防災訓練を通じ安全で安心な学校づくりを推進する。 ・ 国際交流事業の充実を図り、生徒の異文化理解の向上に努める。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教職員の理解と協力の下、行事の新聞記者発表、毎日のホームページ更新など積極的な広報活動により本校教育活動を地域や保護者に広く発信することができた。また、各部・学年の調整役として教職員の意思疎通を図り、円滑な行事の運営ができた。 ・ 防災教育・避難防災訓練は計画的に実施できたが、ゴミの分別や清掃活動については生徒の意識の低下が感じられた。今後は、学年や事務室とのより一層の連携が必要である。 ・ 国際交流事業については、新型インフルエンザの影響で姉妹都市提携訪問団の来校や、短期語学研修の受入が本年度はできなかった。経済情勢の悪化もあるため、今後の国際交流のあり方に工夫が必要である。

<p>生徒指導・保健</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的生活習慣の確立を図り、さらなるマナーアップ、あいさつ運動の輪を広げ、生徒一人一人が生き生き学校生活を送る中で、自己の可能性を追求し、それぞれの進路目標を実現するための支援をする。そのため生徒指導部のリーダーシップのもと、学年、部とのスムーズな連携を図り、全職員で協力して生徒の指導にあたる。 ・式典、学校行事、部活などにおいて生徒の活躍できる場面を設定し、生徒の自己実現を支援する。 ・生徒が自らの健康保持・増進に必要な知識・技能を修得し、心身共に健康で安全な生活が送れるよう実践的な能力と態度を育てる。 	<p>B</p>	<p>概ね本年度の重点項目にあわせた取り組みができた。</p> <p>さらなるマナーアップ、あいさつ運動の実践ということで取り組み一定の成果があった。特にゴミ分別の向上に関しては生徒会執行部より、全生徒に訴え、生徒ひとりひとりの意識の向上に繋がった。</p> <p>生徒の登下校の通学マナー（交通指導）に関しては、個々の意識向上を含め次年度に更に改善が望まれる。</p> <p>クラブ活動は陸上部、少林寺拳法部の全国大会をはじめ、近畿大会出場など近年の中で顕著な活躍を示すことができた。</p> <p>新型インフルエンザには保健部として適切に対応できた。校内組織（校務運営委員会メンバーと保健部）で早急に対応と対策を練り、機会があるごとに学校医と情報交換を行ったことで円滑な対応ができた。校内でも手洗い石けん、消毒液の補充もスムーズに行えた。また、生徒へは保健日より案内のうえ、集会などの啓発を通じて学年でも積極的に取り組めた。学級閉鎖の判断については、今年度初めてのケースで対応に苦労した。来年度はインフルエンザ罹患生徒の把握を学年ごとではなく、全体として把握するように改善していきたい。</p>
<p>進路指導</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒一人ひとりの進路実現のために「生き方指導」を確立するとともに、各部・学年との連携を強化し、進路指導の充実を図る。 	<p>B</p>	<p>進路探究WEEKや説明会、インターンシップなど進路に関する知識・情報を提供し、生徒が進路について考え、相談する機会は十分与えられている。生徒が、進路に対するモチベーションを高め、確かな学力形成へとつなげていくための継続的な取り組みが必要である。</p>
<p>人権・図書</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が、あらゆる教育活動や体験を通して、「共に生きる」心を育て、豊かな人間関係を育む教育を推進する。 ・「朝の読書」や「文化発信活動」などの読書指導を通して、学び知ることの喜びを理解させる。 ・利用しやすい図書閲覧室を目指し、環境整備を行う。 	<p>B</p>	<p>「朝の読書」活動は、職員の理解と協力のもとほぼ定着してきた。今後さらに充実したものとなるよう、工夫・検討を重ねていきたい。「図書館便り」や「新着本紹介」等、生徒への発信活動も充実させ、また生徒が利用しやすい図書館となるように積極的に工夫をして取り組むこともできた。今年度は、図書館書籍のデータ化が始まり、今後これをいかに継続させ、なおかつデータ化による管理及び利用のしやすい図書館にしていくかが大きな課題となる。</p> <p>人権LHRも各学年と協力し、状況に応じて取り組むことができた。</p> <p>「生徒情報」の共有化は今後も課題として残る。</p>
<p>学年・クラス</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の心身の健全な発達を目指すとともに、個性の伸長を図る。 ・社会の一員であるという自覚を持ち、社会の中での自己のあり方を探究する姿勢を育む。 ・自ら学ぶ意欲を高め、学力の充実を図り、進路目標を達成させる。 ・（1学年）導入期にあたり、スムーズに高校生活に入れるように指導法を工夫する。 	<p>B</p>	<p>高校入学にあたり、特に学習面でのつまづきにより早い時期に学習意識の低下のみられる生徒が出てくるため、今年度は特に導入期指導に力を入れた。中学の復習、授業のオリエンテーション、習熟度や少人数のクラス編成等を取り入れ、一定の効果が得られた。また、小テストや週末課題等を各学年で実施し、提出物の徹底と基礎学力の充実・自学自習の習慣づけを図った。</p> <p>ただ、多様な事情を抱える生徒が在籍しており、一律に指導していくことが困難な状況に変わりはない。面談等、生徒個々に応じたきめ細やかな指導を行っているが、今後も、全職員の共通理解の中で継続していく必要がある。</p>

校内組織	・教職員一人ひとりの能力・適性等を生かし、諸会議等の効率的な運営を図るとともに、心の通い合う学校運営に努める。	B	教職員の相互信頼に立脚した学校経営を目指し、職員会議の運営や校運・各種委員会等について効率的で分かりやすくかつ透明性の高いものにするため、今後もさらに構成や内容の見直しを図り、職員の意欲が反映できる職場環境作りに努めたい。
情報	・コンピュータ等情報教育機器の効果的利用について研究を進めるとともにデータ管理の徹底を図る。	B	情報機器の授業における効果的な利用を進め、情報モラルについて指導した。生徒の個人情報などのデータ管理については万全を尽くしている。
事務	・教育活動を進める上で、事務室・校務員室との連携・意思疎通を図る。 ・丁寧で適切な校外との対応（外来者・電話）や校内の事務連絡を目指す。	B	学校の教育活動を進めるには教職員と事務室の連携が必要である。校内・校外を問わず連絡を密にし、情報の共有化を図っていきたい。

4 関係者評価までの経緯

- ・第1回学校評議員会において、関係者評価について説明。
- ・本校の教育活動を周知させるため、学校行事や研究授業等への参加を案内。
- ・教職員による自己評価アンケートを実施(1月)
- ・関係者評価委員に自己評価、生徒による実態調査、進路や部活動の実績等の資料を提示し、各担当者より取り組み内容やその評価について説明。(2月)
- ・評価委員より評価を受ける(3月)

5 学校評価の実施方法についての学校関係者評価

- ・生徒の学習意識・実態調査を評価に落とし込むのは大変である。生徒自身の課題と教育内容への評価を分野別に分けては。
- ・生徒への実態調査を年2回にしたのは変化点が分かって良い。
- ・細かな設問に全職員が答える方法はデータ処理も細かく、興味深い。
- ・自己評価をPTAや生徒にフィードバックし、現状や課題を共有することにより、理解を深め、連携していくことが大切である。

6 評価項目ごとの学校関係者評価

- ・P D C Aのサイクルができていると思う。特にPに取り組みの内容が分かりやすく整理されていると感じた。
- ・職員アンケートの中で「よく分からない」の数字の大きい項目への改善をきちんと次年度の計画に入れてほしい。特に「学力向上プロジェクト」への理解には力を入れてほしい。また、「地域・PTA・同窓会との連携」について「よく分からない」の数字が高いのが残念。様々な人が学校に関わっていきこうと流れをしっかりと認識した学校経営を。
- ・「学年担当」を有効に機能させるように改善いただきたい。
- ・広報活動が行き届いていることは望ましい。
- ・達成状況がすべてB評価になっているが、今後は分野を絞り、Aを目指すべきではないか。
- ・自己評価はアンケートを「Yes」or「No」(できた、できなかった)で回答した方がはっきりしただろうし、私たちも結果に対してコメントしやすくなったと思う。
- ・今年の評価の中に「命の大切さ」という項目があればと感じた。
- ・量の評価に質的な評価を入れることにより、先生方の熱意やモチベーションの高さにも通じると思う。
- ・達成度の低い目標は、目標そのものの見直しも必要ではないか。

7 総合的な学校関係者評価

- ・様々な行事が、時間を有効に使ってまとまりのある行事となっている。
- ・オープンスクールに参加して先生方の熱の入った授業を見せていただいたが、窓が開いている時期の参観なら自然に見に行けるので良いのでは。
- ・入学式での新入生の校歌斉唱には感激した。
- ・文化発表会については、日頃のクラブ活動の成果を発表するものを主体にし、1日で終えても良いのではないか。
- ・体育大会の応援はマンネリ化しているのではないか。小学生の模範になるようなアイデアを生徒諸君に望む。
- ・入学式は、厳かで品格のある空気の中で挙行されていた。母校愛や誇りを持たせることが在校生や卒業生の人生に非常に大切であると考えます。
- ・新聞報道に文武両道の校風(スポーツ成績、対抗戦、卒業生や外部講師による講演会等)がよく表れ、歴史ある学校として卒業生の愛校精神は大変くすぐられた。これからも情報発信、広報活動の充実を希望する。
- ・今年新型インフルエンザの流行等、危機管理能力が問われた一年だと思う。その評価を来年に活かしてほしい。
- ・人権教育や“ちょボラ”等、人と人との交流から学ぶことも忘れないでほしい。